

## 低コスト飼料用米生産技術の導入効果を実証

目的 新技術導入による飼料用米生産を現地レベルで低コスト化を実証する

特徴：飼料用米好適品種を使用して、直播や疎植栽培導入による省力化、堆肥活用等による施肥コスト低減、立毛乾燥による乾燥調製費節減を組み合わせた条件での現地実証試験を行い、玄米重量あたり生産費の削減効果を確認しています。

## 品種に適応した低コスト栽培技術により現地実証試験を実施

①飼料用米専用/好適品種使用  
標準単収に対して150kg超増収により、コストを低減かつ最多助成額確保



②直播・疎植栽培導入省力化  
種苗費の削減および労働時間の短縮

③生産物あたりの施肥コスト低減  
多収品種の利用および耕畜連携による堆肥活用

粗玄米重目標(水分15%換算)

750-800kg/10a

最多助成額確保しつつ、  
生産費100~90円台/kgの  
飼料用米生産費を実証中  
(副産物価額差引生産費)

## 成果

- ・ 平年的な気象条件において、低コスト技術を導入しつつ、玄米収量750kg/10a以上を達成する成績が得られつつあります(次ページ 表1)。
- ・ 高収量と立毛乾燥による乾燥費の節減などの好条件が重なれば、玄米生産費が90円台/kgまで下がることを確認しました。

## これまでの達成度

### ①飼料用米専用/好適品種使用

「ふくひびき」、「北陸193号」を用いて実証

表1 現地実証試験の内容と経営の基礎データ

	山形	福島	岐阜
場所	B市(村山)	A市(中通)	C市(東部)
地域	寒冷地	寒冷地	温暖地
現地実証試験 共通内容	①適切な品種による多収化 ②施肥法の改良 ③立毛乾燥		
現地実証試験 個別内容	湛水直播による 生産費低下	直播による 生産費低下	乳、稚苗移植による 育苗期間短縮と疎 植費低下
個別内容の 細部	・無コーティング直播 ・湛水土中条播	・大豆後作 ・鉄コーティング直播	・良質わら取得による 副産物収入増加
従量生産費目標	100~90円/kg		
使用品種名	ふくひびき	ふくひびき	北陸193号
経営類型	個別	個別	集落営農
規模	18ha	10ha	37ha
利用先	豚	肥育牛	鶏

注：収量は粗玄米重（水分15%）に換算した数値を提示

表2 現地実証試験結果における生産費の現状

	山形の事例	福島の事例	岐阜の事例
実証経営の規模	16ha	10ha	37ha
試験期間(平成)	23-25	22-25	22-25
品種	ふくひびき	ふくひびき	北陸193号
栽培法	湛水直播	湛水直播	乳苗疎植
従量生産費(円/kg)	99	107	100
粗玄米収量(kg/10a)	767	736	793
生産費(副産物価額差引:円/10a)	76,087	78,220	78,183
うち 種苗費(円/10a)	2,250	2,599	1,544
肥料費(〃)	8,505	6,195	9,940
賃借料および料金(〃)	17,553	17,557	19,895
農機具費(修繕込, 〃)	21,908	26,718	23,804
労働費(〃)	11,443	13,851	19,834
副産物価額(〃)	3,500	10,000	9,500

注：全刈収量(水分15%換算)にて表示。生産費の内訳においては、コスト低減に関連する費目を記載している。労働単価は1377円/時間。

### ②直播・疎植栽培導入

種苗費46%~78%削減

山形では労働時間も短縮

### ③生産物当たりの施肥コスト低減

(試験以前に比べ14%~79%低減, かつ目標収量を達成)

※立毛乾燥は低コスト化に有効であるが、主食用米との収穫作業の競合や倒伏により適期収穫が困難な場合がある

#### 対象作物、普及対象

- ・飼料用米、全国

#### 対象農家

- ・飼料用米生産者

#### 必要な道具

- ・直播栽培の場合には、直播機やコーティングマシン

#### 関連HP

[http://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/project/jiky\\_pro/029451.html](http://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/project/jiky_pro/029451.html)

#### その他

- ・乾燥調製費は賃借料および料金に含まれる。
- ・わらと家畜ふん堆肥の交換など、近隣地域内で耕畜連携できると、副産物価額も高まる。